潤稿和合人
一編
中
へ13
3128
5

特
へ13
3128
5

滑稽和合人二編下卷

戯作人
江戸　瀧亭鯉丈　綴

参考

斯て和尚市の矢場七ふひろひ　和二「ゑまづ頼りてふ
敗しなり。此ますくいをおけ　矢バ「そふもくまるぶ
流ふ高ます　和二「どふとの間くまづ湯でもとの
矢バ「ゆへ湯へ入りて　和二「ひろめしてもこの
飯でも喰て　和二「用ぶるくふ蓋蓙でもするぶの　矢バ「ぶの
高くなるとの　和二「そんるる

ぶくぶくふくれてしまン面がの。ハ〳〵〳〵
皆さまの御前。陸今の婦ぐら物八女中方に
思ひつきましたとたくさん実八みかん
の先へ入れてくれ大きなかまきりを
ら丑あぶなく潮へ入りとまりましたぐりまして
いのが実源ごさん自身の白状でござん。さて次の私
白状ふちよびまして。呉人ぐまぐお藻ふおりまし
たら矢場七ぐだのぶくまぐらだまりをいつこさを

同まして。あまりおそをを若を花をとしらへまして
菓子の角ふとへくいのつくくまとヤ分まりく矢
場七の顔色を生のり青ふ変ぐさせ。出発ふ入
まりしらが。一寸人今日のお茶菓でござんト
まぐが矢バ　コウく和次さん。ゐんとよおそ茶ぐんろ
ト　ふを　ふ引　あとぐ　ぐんく和次さん実ふおあ人の
おつけぐたをりまして。弟ぐんとも張吉もまふ居
ぐぐ。とんる時ふハ花ふもるうねへどへでも

和次大明神さま〳〵張き「ハ〳〵〳〵。大きなべらっ
ぐらぐまぐらトッチでゐやアぐる。和次さんが菓子
屋をたのんぐ。おどー〳〵をいのこやり川ぞり縁を
のぐまてこよつて。和次大明神ッ。ハ〳〵〳〵よく〳〵おぼく
なとこんくらトのゆれて也 矢バ「ハ〳〵アゐんふそのぐ。ア
いめんまんれト和次ぶひ大明神ぶ。こくぐらをとり
和二「アハ〳〵。あやまり〳〵〳〵〳〵 矢バ「ムンこや濁りても
義和ゐ〳〵ねく〳〵 矢バ「サアくまこつよくるり川

なかく〳〵 矢バ「イヤ強くるり川こどやアねへ。こるるの脳
義ぐ。アノまこ菓子屋のちくせうめまぐ面ゐ加こ
ぐらこ付きやアぐ川こ。コウおらアゐ実ふうこぐ。
おこのぐんもゐぐのあつこめぐこ来ぐとこいるぐ
ひー虫の大毒ぐ 和二「そまぐこと川こ。あんまるこうすい
ぺらゐ。おぐろきよのぐ。ちろと考へくこんころー。
まぐが毒死まこ和こまこてこと川のちぐ。今日ゆくと
ちゐ不出も言つめへーやアねへ。 矢バ「ムくそんでら

ゆらうへんが。源くうんげ〳〵こんにちハ。菓子をあんに
奥をやつしこく敵を見るとゝ〳〵菓もずいぶん
あるなへ。ごろ〳〵ノ　娘〳〵ヲ。ゝ〳〵大そうな男ひすごし
ゝ〳〵ごぞんじまいらせ子エト　仙きいつてもあの貧屋のをやじ。ぢく
ひよんなことをいひ出し。こくふハ。ぢくぶんハ。こんぢう
いちばんたゝらひとゝりまたちハ
なぎ。大ごとみの西へ。四倉ふうの三十ぢうの女ぢう　女房〳〵ハイごあん
ゝうさりやし。此うちゑ代おん人　さゑハ　おつとまいりとゝ
をやぢ。夫婦七ゑのちかき　夫〳〵ヲ。ゝ。あ次郎さゑゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。
ゝさこれバすぐふとゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。

いの時ひ解ごらうぜ　和二「こくるんみーろあぶねあぶ
まで。モシおうさん。飯くんるすけ。うとまりや
ちくとしいくおくんるせ。あろいみ。ぜ。ぜうぜ
ゆーく　女房「ハイ。唯うとまらーしやまで用向矣で
やとろう子　弟「アイ今うとまーらぶ行うろうりやに
女房「そまでもうとまろうぜうらくんで居てい。
きらうまやとめく　和二「いくサくいぜうても行くうら
あんじぶふそう。いのみせ。ゝゝ　女房「ハイそーくら

皆さうあおうろうとト叫くう　弟「ゴろらるく理ろうをい
嘆ゥじぜ　猪「そゝさ。うとまりてハきらまあの。
て居てい斬いくの白井撞八がさるをするつぜ。
乳床のゴろとい　矢バ「ちばげ。れ。のろア。何の焼
芋屋ぜちらん　和二「ナゼ焼芋屋ぜ　矢バ「アノまの
撞をゴんれく十本ゴぶく萬屋ふるろく居ろハ
人物といひ河といひ。ヘン家らぶ用の付ぶぜハ
和二「ゴく此猫蛙ハ。おそろいと真ろのみハ梅ヶ床

ざこのある女房ごろう。ハテ。第八「そうもやアのうが。
そうんな行き氣。たゞでさへ暑くてたまらねへ。
物干ぐ照りつけ。張「それゝ
ゝ。ゝ。ゝ。

よくはさくあるのウ　和「そんサ宵時ぶんうるの
ごとよりぶどあるい　張「はなみでん霜月どの
きまつらまよりみる　矢バ「さまびサ。あれでも多賦地一チ
ねぐ。ありぐうくうるくあるのぶ宮例ごノウ　張「そん
あるまづてうぷくやらるそうたうー　朝子をのむ
火ぐとはもと。あるうくるーのぶるんとるで春心ユ
風あるめる　矢バ「のるまぶる天宮さをいぐれ
ちめー。面白くもねく　和「此男もだるくーく長ぐるぜ

うぬだるり夏のよるこ。コレ世間一統のるもぐ。あたら
めのるるん　張「うんるとうありうるる宮ふたら
きまねくコレ此通りびるたるりぶ。和「へンけそるる
うら。汗もなるのサ　張「へン何をいてもるぶるのナ
和「きまてこ夏よ。六月ちゅ用のうらふゃレあるいそま
汗が出てこのとあげこしーそふよ。いけやるまーの換
換するも七面倒ぐ　張「ナぜく六月ちゅ用のうら。長
いとるてへこるるるまるる附合でも。たよるん

見せ来ふ来く依きんざいしてござりまする。
ちろうんとろいのハ皆りめんごろうじやうれいの
コレ志よろうんこんとハうんざ 和「志よろうんゴハ春の来
たら戸前くろいくもらうがい 和「マヅ志やまハ志ば
らく新ってヲイ張「何のるごヨ 張「ナゼ志よろうんこ
めくを志らねろ。て氣の毒なめんご。ソレ吉原や二
丁町の茶屋ろ。おらが内へ関屋や 張「ハアそう
来るのを知りくるるごろう。あのヒヨ 和「ハアそう

ちの内へ茶屋が何を志ろうまくれくが。
ハイ志よろうんのおくまのよさんじまーことりよ
張「上ロ方のようこ。ソウ立流ふあらてこそそ
いろねくが。五用ゲ入ろ。そよーとあるくのを志ろう
ろんまんといくのヨ 和「ハハハハ。あまりこめんだろのご。
コレこそ五六見申「ろんまといくものご 張「そのものご
志よろうんともいのぎ 和「コレよく聞ろー。あろいのご見ヨ
さんのご寒ヨ。ろうそを一ト見ありさ

寒さを寒がるといふ事でハ。上の方ゝと聞くと
方ゝと聞く土用入寒を暑さ寒さといふ物
そなたどのひちやゆでハあるまいと思ひ居ました。
あんまりよく出まして精ゝ「そふよ。そなた暑
中ふ暑くきびしいのゝ暑といふ事ハ張「俳
それいたゞきあつうゝどゝまりとやうゝ
うゝ流でいくゝ「いとらいくゝ
土用のうちなゝ暑ゝ土用ゝ明くあ

のゝ暑ゝ。暑ハあり山ハ張「ヘン
温ハあるゝ。保ハおゝ。乃髪のつやをよくいと
すとゝゝまゝ。ふつゝひまゝ京都ハみゝ朔
金のホイまゝゝ和二「いやくいとけゝ
消ねゝ。ふつけくとゝ。
けゝやうくゝ根生ゝ覚へられ
ねゝ張「ヘンそれねゝ和二「ハゝ新旬の
つゝねゝのゝねゝ何をそれはむあるのゝ

ゐるらねく返事ごノ　張「おまへ人ごとも情知しく。
それをまさるゞ男のお勤めッ　和「コレとんゐ　ゐる感ゐ
くらと金くいぶと。日見ゐ紙ちぶいどうする。　矢「さ
まべサ。ゐのゐしろ此ゐ天ゐ物千ぐ日をうんをるとゐ
いおとろしゐ思ひ付ぐ。どうも命をおしんでゐ代
およだまゐいけねくゼ　和「どゐするゐ。ゐうゐ社
掛けらまてさくゐ見ぶねく日をうんくせぐろゐ夢
ゐ〜とりゐ夏もあるゐ　張「ちげくねく。ゐも其

ようゐ日ゐんをうるゞる夏ゐねく　矢「そゐよく先ろら
第一枝を付らまてさうゐ日ゐんちゐまゐ内ゐゞぐ
ゐくゐゐ〜ゐまねくをぢゞ　第「ゐの彼のと日ゐん
勇傷せぐとサ。日ゐんの出ゐる。ゐゐ此男を惜し
べゞぐ。ひゐくゐゐあ〜ゐけよゐ　和「ひゐくと
ひゐく。ゐゐんなくゐのあるを知りつ。どゐもまゐれ
でゐひゐくめく　張「そんゐゐ日ゐんどゐの選をうく
なゞゐ。あんまり　ゐるゐ地ゐゞナ　矢「あせぐびゐ

きうりんきうり膳よりはどのぐろう 和尚 きうしろうも
ねくてへげんぶつ。どつけさうし。今宵ぐ貴を祈さ
どりく。敬ふたれしきふ庭ものなくれく喜ぐる。
藤くしの 寿丸「コウ」今のうこびぐで男のつ山
たぐ。とのつアどつぐごろう 張書「そのつアコるそのぐナ
寿丸「コそよくけちをはつこぐる。マアだまちく聞し。
まづ先の男のつきく。日をつんなうのと号しく。物ナく
ぐ知しく唖てうつけさせくふうしませよのとのつ。お薬

北未宮
復直
月堂